

インフルエンザワクチンについて



柏市立柏病院 感染対策委員会

寒さが厳しく、空気が乾燥してくると、いよいよ今シーズンもインフルエンザの流行する季節になってきましたね。

予防接種を済ませられた方、またニュースなどでご覧になった方などはお気づきかと思いますが、今シーズンのインフルエンザワクチンは従来のものとは異なっているのをご存じでしょうか？

今回は、インフルエンザワクチンについて当院の感染対策委員会に聞きました。

1、今シーズンのインフルエンザワクチンはどこが違うの？

今シーズン、多くの病院でインフルエンザワクチンの値段が上がりました。これは決して化血研のインフルエンザワクチンが市場に出るのが遅れたからではなく、ワクチンに入っている株価（種類）が3株から4株に増えたためです。

2、どうして増えたの？

インフルエンザにはA型とB型があります。今までA型は複数の型が流行していることが分かっていたので、常に2種の株が入っていました。一方で、B型に関してはA型より流行の比率が少ない傾向が見られたので、1種類の株をワクチンに入れていました。

B型が1種のみだった理由はもう一つあります。それは、ワクチンに入れてよい容量の上限が法律で決まっていたからです。B型を複数入れると容量オーバーになりました。

しかし近年、国内のみならず世界的にB型も複数の株が同時に流行する傾向が見られ、WHO（世界保健機関）もA型2株、B型2株のワクチンを推奨するようになり、世界の動向は4株ワクチンへと移行していきました。このことから日本でも法律の改正が行われ

（生物学的製剤基準「平成16年厚生労働省告示第155号」の一部を改正：平成27年3月30日厚生労働省告示第192号）、4株に増やすことが出来るようになりました。

●今シーズン（2015/2016年）の株は以下の通りです。

【A型株】

A/カリフォルニア/7/2009 (X-179A) (H1N1)pdm09

A/スイス/9715293/2013 (NIB-88) (H3N2)

【B型株】

B/プーケット/3073/2013（山形系統）

B/テキサス/2/2013（ビクトリア系統）

3、インフルエンザワクチンの株は誰がいつ決めるの？

日本が位置する北半球のワクチン株については、まず2月中旬にWHO（世界保健機関）が「WHO 北半球ワクチン株推奨会議」を開催して次年に推奨する株を発表します。

国内では、国立感染症研究所がWHOからの情報と国内外の流行状況や流行株を解析し、「インフルエンザワクチン株選定のための検討会議」において本邦の来年のワクチン株を検討し選定します。国立感染症研究所長は、その結果を4月中旬に厚生労働省健康局長に報告します。

そして4月下旬にはワクチン株の決定通知が厚生労働省健康局から都道府県や日本ワクチン産業協会に送られ、国内の製造業者がワクチンの製造を開始します。

その後、インフルエンザワクチンは9月に国家検定を受け、合格したものだけが9月下旬から順次出荷されます。そして10月から予防接種が開始されます。

4、インフルエンザワクチンはいつ接種すればいいの？

インフルエンザは例年12月～3月頃に流行します。また、ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要することから、11月頃から遅くとも12月中旬までにワクチン接種を受けることが望ましいと考えられます。

5、インフルエンザワクチンの効果はどのくらい持続する？

これまでの研究から、季節性インフルエンザワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（小児の場合は2回接種した）2週間から5カ月程度と考えられています。

ワクチンは、残念ながらインフルエンザの発症予防について100%の効果を期待することは出来ません。また、流行するインフルエンザウイルスのタイプが毎年少しずつ変化するため、翌年まで有効というわけにはいかないのが特徴です。

しかし、接種率が80%を超える集団が、そうでない集団と比べて感染率が全体的に低かったことが調査で分かっています。

インフルエンザウイルスは、インフルエンザ患者さんのくしゃみなどの勢いで空気の流れに乗って浮遊していきます。どこにウイルスが付着し、浮遊しているか分かりません。

流行時期の自己防衛としては、ワクチンを接種しても安心せず、手洗い、うがいの励行を心がけて下さい。特に受験生にはマスクの着用もお勧めします。

空気の乾燥は浮遊するウイルスには絶好の環境です。室内は常に50%以上の湿度を保つようにしましょう。

また、メディカルトピックスの過去履歴から「2014.01.01 感染から身を守る」をご覧くださいと、手洗いの順序やマスクの正しい付け方から使用後の処理の仕方まで、ご紹介していますので、是非ご覧いただき、厳しい冬を健康な体で乗り切りましょう！！

この文章の一部は、国立感染症研究所のホームページ、厚生労働省健康局の通知を参考に作成しました。



※インフルエンザに関する詳しい内容は、厚生労働省のホームページに紹介されています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>